

ア メリカ合衆国カリフォルニア州の南部に位置するレッドランズ市で生まれたワイレス・マシュー先生は、白糠こども園や白糠小学校、白糠中学校を主に担当するALT（外国語指導助手）として7月30日に着任した。

マシュー先生はロサンゼルスカリフォルニア大学リバーサイド校でアジアの歴史や日本語を学んだ。「日本の“漢字”を見て、これはいったい何だろう？って思いました。大学に入るまで、漢字というものを知らなかったんです。漢字が読めるようになったらすごいだろう

などと思い、大学では日本語の初級者コースへ進むことにしました。最終的には2年半かけて中級コースまで行きました」

大学卒業後、自治体国際化協会が各自治体にALTをあっ旋するJETプログラムを活用して、2019年8月に弟子屈町のALTとして初めて日本へ来た。

「一度海外で暮らしてみたかったです。日本語を勉強していたこともあり、日本の文化を詳しく知りたいと思いました。最初の勤務先は弟子屈町でしたが、北海道に来ることができて良かったと思っ

ています。食べ物もおいしいですし、四季も感じられる。冬の寒い日に摩周湖で白鳥を見ながら露天風呂に入ったのは、本当に最高でした」

日本に来る前は、日本のことをどれくらい知っていたのだろうか。

「ほとんど知りませんでした。日本のアニメやゲームは知っていました。日本に来ることが決まってからは、邦画をよく観るようになりました。伊丹十三監督の『マルサの女』や『タンポポ』などは大好きです。黒澤明監督の映画も好きです。最近山田洋次監督の『男はつらいよ』を見ました。日本に来た当初は、日本語で会話することが難しかったのですが、今では日常会話ができるようになりました。邦画も字幕なしで観ることができるようになりました」

マシュー先生はこう言います。

「私は日本に来て、日本の文化を知り、日本語も話せるようになりました。そして、おいしい食べ物も食べることができました。日本に来ることができて、とても良かったと思っています。日本の子どもたちも、私と同じように海外へ行って、その国の文化や日常生活のことを知ってほしいんです。きっと楽しいですし、視野も広がると思います」

「私は、日本語の『ファイト』という言葉が好きです。英語だとファイトは『戦う』という意味ですが、日本語では『頑張る』とか『諦めないで』という意味ですね。これから子どもたちが頑張るって英語を勉強したら、ファイト！って応援したいと思っています。そして私も子どもたちにきちんと英語を教えられるよう、一生懸命ファイトします！」

ワイレス・マシュー・ロバート

1996年1月1日生まれ。今年の7月11日に釧路市内の塾で英会話を教えている女性と結婚。白糠で一緒に暮らしている。趣味は映画鑑賞や旅行、ゲーム、ドライブ。一番好きな日本食は、みそラーメン。



「海外へ行って、その国の文化や日常生活のことを知ってほしい」



7月30日、川島眞澄教育長から辞命を受け取るマシュー先生。ちょっと緊張していた様子です。